

憲問第十四

子曰、有徳者必有言。

有言者不必有徳。

仁者必有勇。

勇者不必有仁。

子曰わく、とくあものかならげんあ
徳有る者は必ず言有り。

げんあものかならとくあ
言有る者は必ずしも徳有らず。

じんしやかならゆう
仁者は必ず勇あり。

ゆうしやかならじんあ
勇者は必ずしも仁有らず。

(14-347)

<子曰わく、徳有る者は必ず言有り>

Q：「子曰わく、徳有る者は必ず言有り」とは何ですか。

A：(1)「孔子が言った。徳性をそなえた人物は、必ず、すばらしい言葉を言うものだ」の意。

(2)「道徳の備わった人には必ず善言がある。心の中に蓄積された徳が、おのずから外へあふれ出て言葉となるからである」の意。

(3)「必有言」は、きっと善言となって外へあらわれる。

<言有る者は必ずしも徳有らず>

Q：「言有る者は必ずしも徳有らず」とは何ですか。

A：(1)「しかし、すばらしい言葉を言ったものが、必ずしも、徳性のある人物とは限らない」の意。

(2)「しかし、善言を出す人が、必ずしも徳のある人とは言えない。巧言令色で、外を飾る人もあるからである」の意。

<仁者は必ず勇あり>

Q：「仁者は必ず勇あり」とは何ですか。

A：(1)「また、仁(人間愛)をそなえた人物は、必ず勇氣(思いきりのよい気力)があるものだ」の意。

(2)「仁者はきっと勇氣がある。なぜなら、心に私欲がなく、義であれば行わんとするからである」の意。

<勇者は必ずしも仁有らず>

Q：「勇者は必ずしも仁有らず」とは何ですか。

A：(1)「しかし、勇氣のある者が、必ずしも、仁者であるとは限らないのだ」の意。

(2)「しかし、勇者は必ずしも仁者ではない。中には血気の勇とも言うべき道にはずれた勇も

あるからである」の意。

(3)言葉は人の表現。真に善い言葉は、真に善い人の独占物。往々にして巧言令色で行いのこれに添わないものもある。しかし、これは、絶対的存在ではない。まことの姿ではない。孔子はこれを戒めたのだ。世に慈母の勇を見る。仁者の勇はこれである。血気の勇とは大いに異なる。

2011年6月23日林明夫記